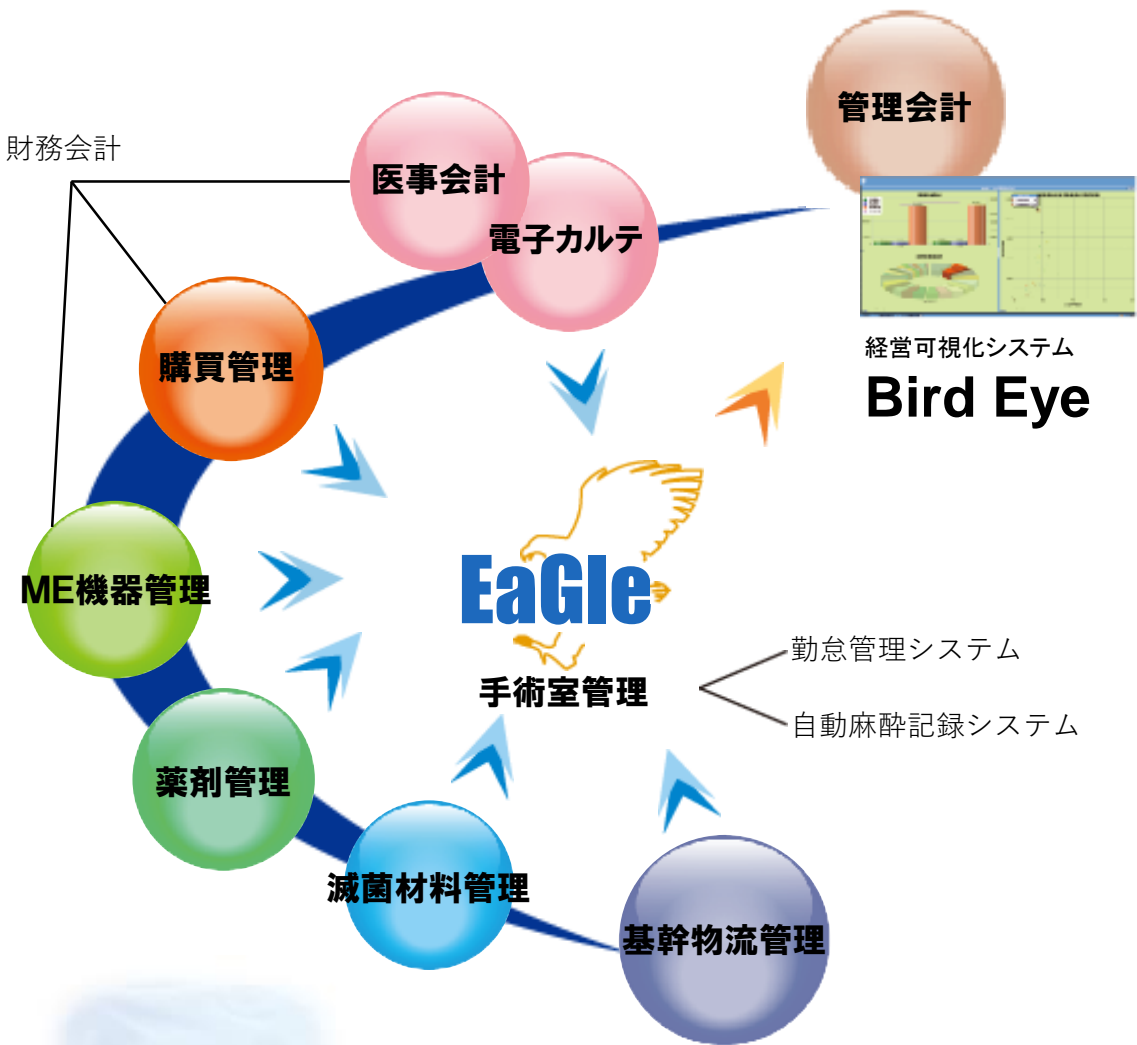


院内システム連携例

基幹物流管理システムなど他の院内システムと私たちの推奨するHDR(Hospital Data Repository)を介して連携することで、シームレスな『EaGle』との連動が行えます。
そして各部門の業務効率化を図るための、よりリアルタイムな情報の共有を可能にします。



薬剤総合管理システム

Condor

コンドル



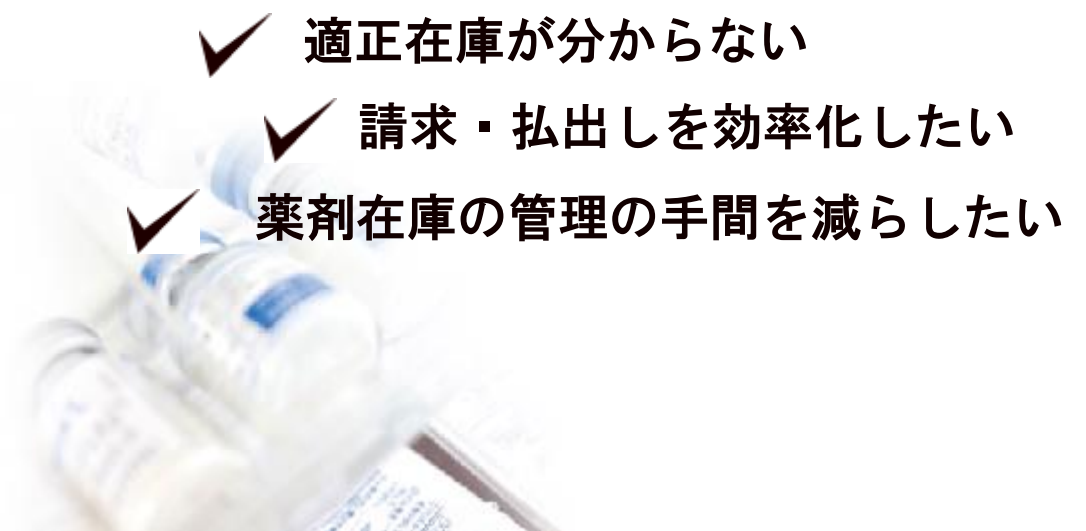
販売:

開発元:

 株式会社DynaxT
ダイナックス ティ

〒761-0301 香川県高松市林町 2217 番地 6
TEL : 087-887-8881 FAX : 087-887-8889
URL <http://www.dynaxt.co.jp/>
Email info@dynaxt.co.jp

Think Hospitality for Hospital



Condorは、病院の約2割の支出を占める薬剤に関する業務をサポートします。
 複雑になりがちな薬剤在庫の管理を効率化するために、仕入、在庫管理、院内での請求と払い出しなどの院内薬剤物流管理に必要な機能を備えました。
 また、各部署とも情報を共有することができ、薬剤部だけでなく各部署の薬剤管理の手間を軽減します。

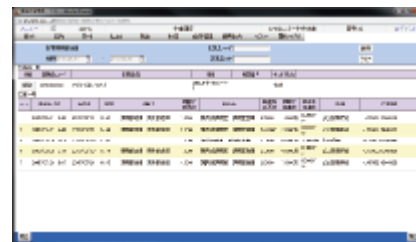
管理部署（薬剤部）



- ▶ 請求受付
- ▶ 破損・破棄登録
- ▶ 払出管理・払出表出力
- ▶ 払出予定作成
- ▶ 部署間移動登録



- ▶ 自動発注
- ▶ 発注管理
- ▶ 発注状態参照
- ▶ 検品・入庫
- ▶ 後追い発注
- ▶ 返品処理



- ▶ 在庫管理
- ▶ 棚卸
- ▶ 各種履歴参照

各部署（外来・病棟等）



- ▶ マスタ管理
- ▶ 契約管理



- ▶ 支払管理機能
- ▶ 一括値引き
- ▶ 単価訴求値引き



- ▶ 医薬品請求（常備薬・臨時）
- ▶ 破棄・返品登録
- ▶ 請求状態参照

導入事例

● 医薬品に関する情報が旧システムで管理できていない項目あり、職員の手間や時間が多くかかっていた。
 （2013年導入 関東地方 A病院）

日々の補充請求を行う際、自部署では使わない薬品も多く、数多い医薬品の中から請求したい医薬品を検索するのに手間がかかっていた。

▶ 部署ごとに請求が可能な医薬品の設定ができるようになり、部署ごとに医薬品セットを作ることも可能なので、補充請求の入力作業が効率化。医薬品毎に請求可能最大数/最小数を設定により過剰請求なども未然に防止できるようになった。

輸液は、棚卸後に前日の在庫数と当日在庫数の差を比較し、補充が必要な数を計算しなければならなかったため、手間と時間がかかっていた。

▶ ハンディターミナルを使用して棚卸（実棚の在庫数確認のため）ができるようになり、自動的に必要数を計算してくれるので、請求や発注の作業が楽になった。また、輸液の在庫管理の精度も向上した。

● 納品時に、業者在庫欠品などで発注数量に満たない場合の分割納品を発注書と納品書に覚書きをして帳票管理をしているので手間がかかっていた。

▶ 未納品や分割納品に対応しているので、納品予定残数をシステム上で確認することが可能になり、重複発注や欠品、分割納品の管理が容易になった。

● 院内の各部門や納入業者との情報のやり取りが人の手に頼らざるを得なかったため、管理の精度が上がらない。
 （2013年導入 四国地方 B病院）

● 電話での（緊急）発注では、発注情報がシステムに登録されず、システム上で管理ができないため、緊急時の持込医薬品などは別で管理をしなければならなかった。

▶ 入荷後で登録可能な後追い発注機能があるので、持込医薬品もシステム上で一元管理ができるようになり、業者への支払処理などの業務が効率化され、手間も楽になった。